



校長室だより

黒部市立村椿小学校
文責：校長 寺島紀子
令和6年12月24日
第31号

23日(月)、目に見えてうっすらと雪が積もった朝、数人の子が児童玄関前に小さい小さい雪だるまを並べてくれました。大人にとっては厄介な雪も、子供たちには楽しみの一つですね。



毎週水曜日のお昼にある「Happy English」の時間ですが、先週18日は2学期最後ということで、子供ではなく大人が英語で発表をする回でした。どんなクリスマスプレゼントがほしいかを順にステフ先生に質問され、次々に英語で答えていきました。一番手の私は“two dinner tickets (ペアお食事券)”でしたが、あとに続いた先生方の中には“youth (若さ)”や“money (お金)”等々、大人ならではのさまざまな回答がありました。面白いジェスチャーも加わり、子供たちは興味津々で楽しそうにその発表を見ていました。



いよいよ冬休みです。クリスマスや大晦日、お正月と年末年始の楽しい予定がいろいろとあることでしょう。皆様、よいお年をお迎えください。

自分で自分に「いいね！」のメッセージを贈いましょう～終業式の話から～

24日(火)は2学期の最後の日です。朝一番に体育館に集まり、寒さで少し身の引き締まる中での授賞集会、そして終業式を行いました。

★自分の歩みは自分が一番分かっているはずだから・・・

振り返ってみると、2学期は運動会や中距離走記録会、夏休みの作品展や数々の応募入賞、計算大会、わくスタノートの取組、そして毎月の玉椿賞と、実にたくさんのつばきッズの活躍がありました。授賞集会の時によく話しているのですが、さまざまな機会(チャンス)を見つけて挑戦(チャレンジ)することで、自分自身の成長につながり(チェンジ)、ときにはすてきなご褒美がもらえることもあります。

ただ、たとえ「賞」がもらえなくても、自分が本当に頑張ったことは何より自分自身が一番分かっているはず。目に見える結果は簡単には出ないこともありますが、「あのときあんなふうに頑張ったな」と、自分で自分に「いいね！」をあげることができると思います。

★「しなくてよかったこと」もありますよね・・・

目に見えて頑張ったことが思い浮かばず、「うまくできたことがあまりなかった」という子もいるかもしれません。しかし、考えてみると「しなくてよかったこと」もありますよね。

たとえば「周りの人にいじわるなことを言わなかった」「友達とけんかをしなかった」という人は「いじめのない明るく優しい村椿小学校」になるように、毎日の小さな心がけを大切にしてくれたということです。また、「廊下を走らなかった、道路でも急な飛び出しをしなかった」という人は、安全な学校生活となるように、自分の命も人の命も大切にできた人です。どちらも本当に「しなくてよかった！」です。

106名のつばきッズが、この2学期にそれぞれ少しずつ前に進めたことと思います。その自信を胸に來たる2025年を迎えましょう。

転校しても元気でね！

この2学期末で市内の他の学校に転校していくMさん兄弟が、校長室に来てくれました。村椿小学校での思い出を聞くと、弟のRさんは「なわとびをがんばった」と話してくれました。兄のYさんはいつも放送委員としてよく働いていた姿が印象的です。持ち前の優しい心で、新しい学校へ行っても友達がたくさんできることでしょう。これからも元気でね！ 最後は他学年の子も入り交じり、みんないっしょに「はい、チーズ！」



★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想などをお知らせください。お待ちしております！

校長室だよりへの感想

切り取り

できればお名前 or 児童名 ()

感謝の心とコミュニケーションの大切さを教わりました

去る19日(木)に「ふるさとキャリア教育出前授業」として、5・6年生が地元の「共和土木株式会社」の方から、企業の概要や地域貢献活動等についてのお話を聴く時間がありました。※学校HPもご覧ください。

ちょうど今年度の校舎改修工事に当たってくださった業者さんでもあり、興味深くお話を聴くことができました。盛りだくさんの話のまとめとして、専務取締役の飛鳥さんは「いろいろな人々の協力によって私たちは安全な生活ができています。そのことへの感謝の心をもってほしい」と話されました。また本校の工事を担当した小竹さんからは、「職人さんには自分より年上の人もたくさんおられる。気持ちよく働いてもらうためには日頃からのコミュニケーションが欠かせない」と教えていただきました。高学年の子供たちにとって、まさにこれからの生き方のヒントになる内容がたくさんありました。共和土木さん、貴重な出前授業をありがとうございました。



シリーズ「教室におじゃまします」12月23日(月)1年体育科の巻

2学期最後の体育の授業でした。初めはなわとび練習です。タイマーを使って30秒ずつ計りながら前両足とび、前かけ足とび、後ろ両足とび、次々に跳びました。こうした練習をよくしているのでしょう。慣れた様子でテンポよく進みました。

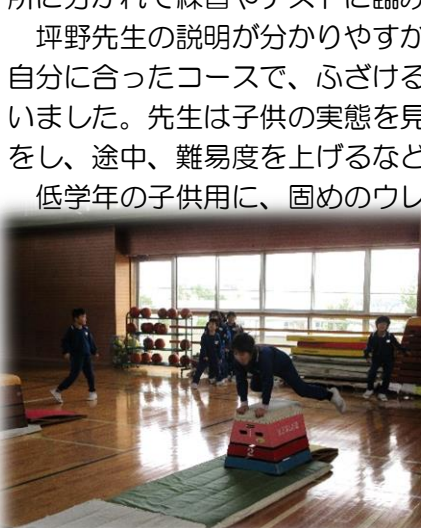
次に跳び箱運動です。みんなで協力して準備を行います。安全に気をつけながら動いていて感心です。あっという間にマットが2枚ずつ、高さ等の違う3種類のコースが作られました。

「テストをします」とのことでしたが、今回は①とびのり(踏み切り板で弾みをつけ、片足で跳び乗る)、②とびおり(両足で、なるべく遠くへ跳ぶ)、③着地(ふらつかない)の3つで、1年生らしくジャンプ遊びの基本的な内容です。真ん中のコースは坪野先生がしっかりチェックする「本番用」、あとの2つは本番前の「練習用」と本番が終わった人用の「2年生みたいな」コース(開脚跳びの練習コース)で、子供たちは思い思いの場所に分かれて練習やテストに臨みました。

坪野先生の説明が分かりやすかったので、どの子ども自分に合ったコースで、ふざけることなく取り組んでいました。先生は子供の実態を見ながら、アドバイスをし、途中、難易度を上げるなど工夫していました。

低学年の子供用に、固めのウレタンでできた「当たっても痛くない」跳び箱もあるので

すね。あえて助走をつけすぎずに、しっかりと手をつけてから開脚跳びをさせるなど、低学年用の教え方、取り組ませ方を繰り返すことで、どの子ども少しずつ「2年生みたいなとびかた」に近づいていきました。



<おまけのひとりごと>ふるさとキャリア授業に来ていただいた、共和土木の専務取締役、飛鳥正洋さんは、この村椿小学校の校舎が出来たとき、小学6年生だったとか。卒業前の小6の3学期になって新校舎に移り、3か月間だけを過ごしたそうです。「このランチルームで給食を食べたことも思い出の一つです」と、授業の初めの自己紹介のときに話してくださいました。私の何年か後輩でした。「話をするのがそんなに上手くないので」と謙遜(けんそん)されながらも、話す内容をしっかり準備して、分かりやすくお話ししてくださいました、ありがとうございました。地元の企業から学ぶという、このような機会を今後も大切にしていきたいです。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想などをお知らせください。お待ちしております!

校長室だよりへの感想

切り取り

できればお名前 or 児童名 ()